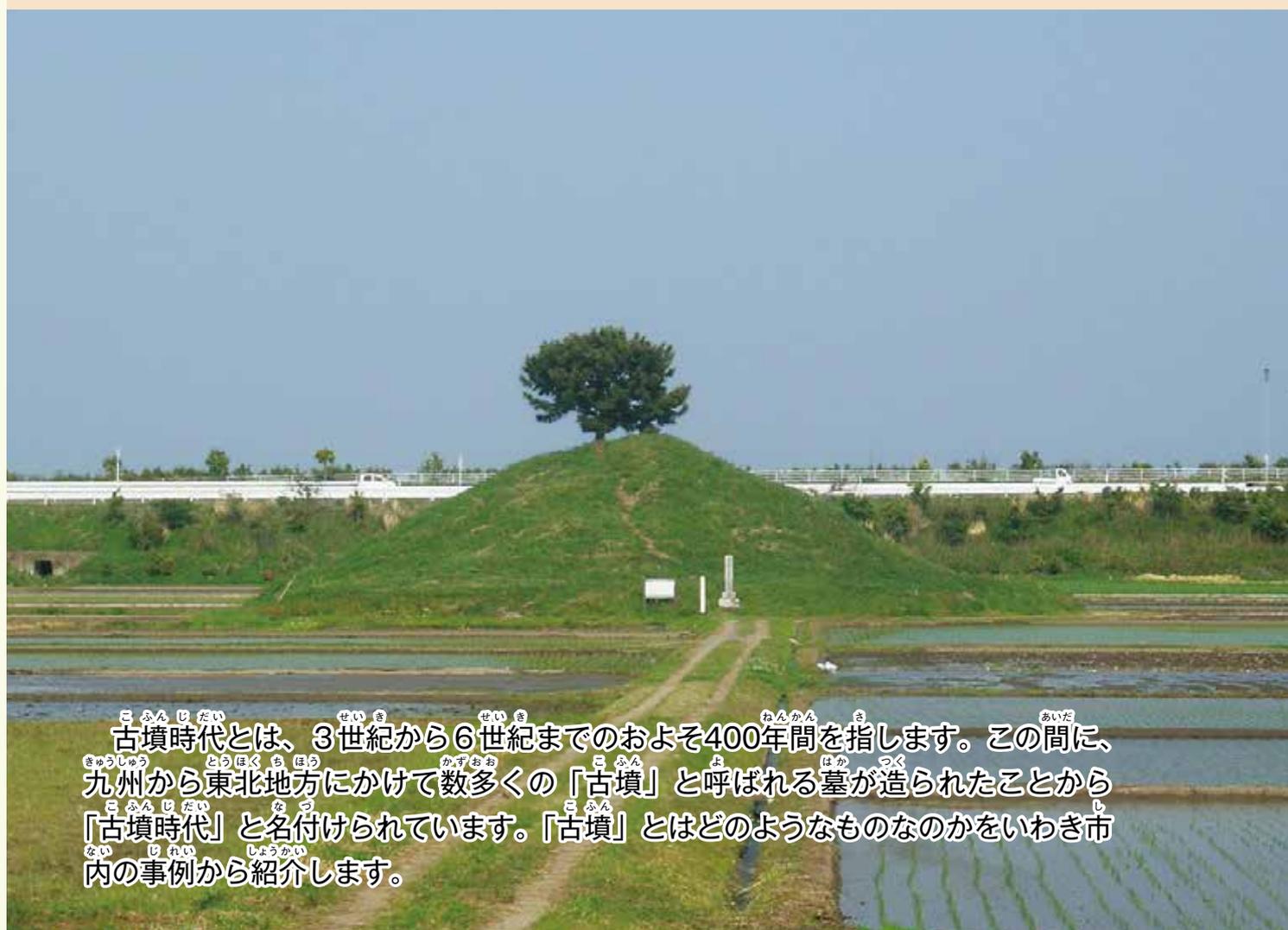


たからものずかん 8

こ ふん じ だい いわきの古墳時代 I

こ ふん へん
- 古墳編 -



古墳時代とは、3世紀から6世紀までのおよそ400年間を指します。この間に、九州から東北地方にかけて数多くの「古墳」と呼ばれる墓が造られたことから「古墳時代」と名付けられています。「古墳」とはどのようなものなのかをいわき市内の事例から紹介します。

くにしていしせきかどづかこふん
国指定史跡甲塚古墳
たいらあつためあざかどづか
(平荒田目字甲塚)

2021

こうえきざいだんほうじん
公益財団法人
しきょういくぶんかじぎょうだん
いわき市教育文化事業団

古墳について

古墳は土を盛り上げて造られた墓で、その地域を治めていた人物が埋葬されています。近畿地方で成立した勢力（大和朝廷）の有力者（大王など）の墓として造られ始め、勢力の拡大とともに各地を治める豪族の墓としても造られるようになりました。

古墳の成り立ち

古墳の基になったのは、弥生時代に造られた墳丘墓と呼ばれるものです。有力者（村のリーダーなど）の墓で、土を盛り上げたり、山を切り出したりして造られていました。



平窪諸荷遺跡（弥生時代 墳丘墓 約8m×約8m）



甲塚古墳（古墳時代 円墳 直径約37m）

古墳の形と名前 —前方後円墳の場合—



上から見た前方後円墳

●墳丘…古墳と聞いて思い浮かべる山のような部分。
前方部と後円部からなる。

●主体部…棺を納めた場所。
必ずしも後円部の真ん中にあるとは限らない。

●周溝…墳丘を囲み古墳とその外側を区別する。
水が張られるものと張られないものがある。

はにわ
埴輪

古墳の上や周りに並べられた焼き物です。
筒状の円筒埴輪と、様々なものの形を模した
形象埴輪の2種類に分けられます。

形象埴輪の中でも人物埴輪は、当時の人々
がどのような格好をしていたのかを知るため
の大きな手掛かりとなっています。

いわき市内でも、埴輪がいくつも見つかっ
ています。なかでも神谷作101号墳から出土
した人物埴輪と円筒埴輪は国指定重要文化財
となっています。



えんとうはにわ かみやさく ごうふん
円筒埴輪 (神谷作106号墳)



じんぶつはにわ てんかんはにわ
人物埴輪「天冠埴輪」
(神谷作101号墳)

ふくそうひん
副葬品

副葬品とは、埋葬される人と一緒に棺や石室の中に入れられたものです。土器をはじめとして、勾玉・管玉
といった装飾品、刀・剣・鏃といった武器、挂甲といった武具、馬を飾る馬具など、様々なものが見つかります。



てつとう よこやま こふんぐん
鉄刀 (横山古墳群)



てつぞく よこやま こふんぐん
鉄鏃 (横山古墳群)



けいこう こざね きんかんづか こふん
挂甲の小札 (金冠塚古墳)



くびかざ かみやさく こふんぐん
首飾り (神谷作古墳群)

※挂甲とは、小さい長方形の鉄板 (小札) を紐でつなぎ合わせて作る鎧。伸縮性に優れる。

いわきの古墳

金冠塚古墳



錦町堰下にある中田古墳群の一つで、直径約30m、高さ3mの円墳です。

もともとは山の上古墳と呼ばれていましたが、昭和25年の明治大学の調査によって横穴式石室の中から金銅製冠の一部が見つかったことから金冠塚と名前が変更されました。金銅製冠のほかに、大刀、鏃などの武器、挂甲の小札といった武具や、ガラス小玉、コハク玉といった装飾品が副葬品として納められています。石室の中からは13体分の人骨が見つっています。これらは、東京国立博物館に所蔵されています。



金銅製冠の一部

現在の様子

塚前古墳



小名浜林城字塚前にある古墳です。墳丘はほとんど残っていませんが、周辺の調査から、前方後円墳であったと考えられています。後円部は直径約50mとなり、古墳時代の終わり頃としてはとても大きな古墳であることがわかりました。

また、古墳を造るときの土の盛り方も判明し、西日本の影響が考えられます。



平成28年調査時の様子



墳丘の断面（黄色と黒の土が交互に盛られている）

かみやさくこふんぐん
神谷作古墳群



平神谷作字腰巻にある古墳群で、現在10基の古墳が確認されています。
 この古墳群で有名なのは、101号墳と呼ばれている古墳です。前方部はすでに削られていて
 現在は後円部しか残っていませんが、昭和23年の調査で見つかった埴輪男子胡坐像（天冠埴輪）
 をはじめとする埴輪は国指定重要文化財になっています。また、平成27年に行われた調査では新たな人物
 埴輪や靱形埴輪、馬形埴輪が見つかりました。ただ、残念ながら埋葬施設は見つかりません。



ゆきがたはにわ
靱形埴輪

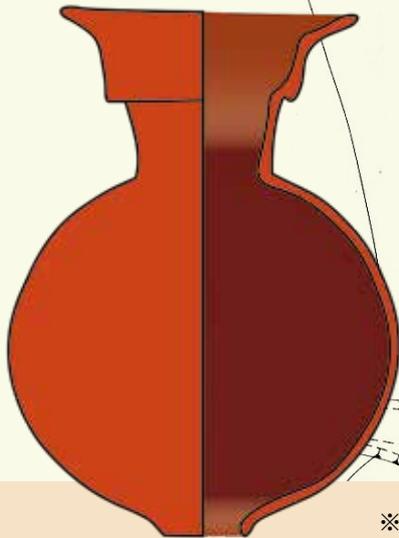
うまがたはにわ
馬形埴輪

じんぶつはにわ
人物埴輪

ゆき
※靱とは、矢を入れる道具。筒型ではなく箱型となる。

たま やま こ ふん
玉山古墳 —いわき市最大の前方後円墳—

ぜんちやうやく ぜんせいだい ぜんぽうこうえんふん とうほくち ほうぜんたい ほん
 全長約112mのいわき市最大の前方後円墳で、東北地方全体でも5本の指に入ります。古墳の形や規模、出土した遺物などから古墳時代の初め頃（4世紀）に造られたことがわかっています。周辺地域では同時期に大型古墳が見つからないことから、玉山古墳に埋葬された人物は、現在のいわき市から相双地方までを治めていた人物と考えられます。

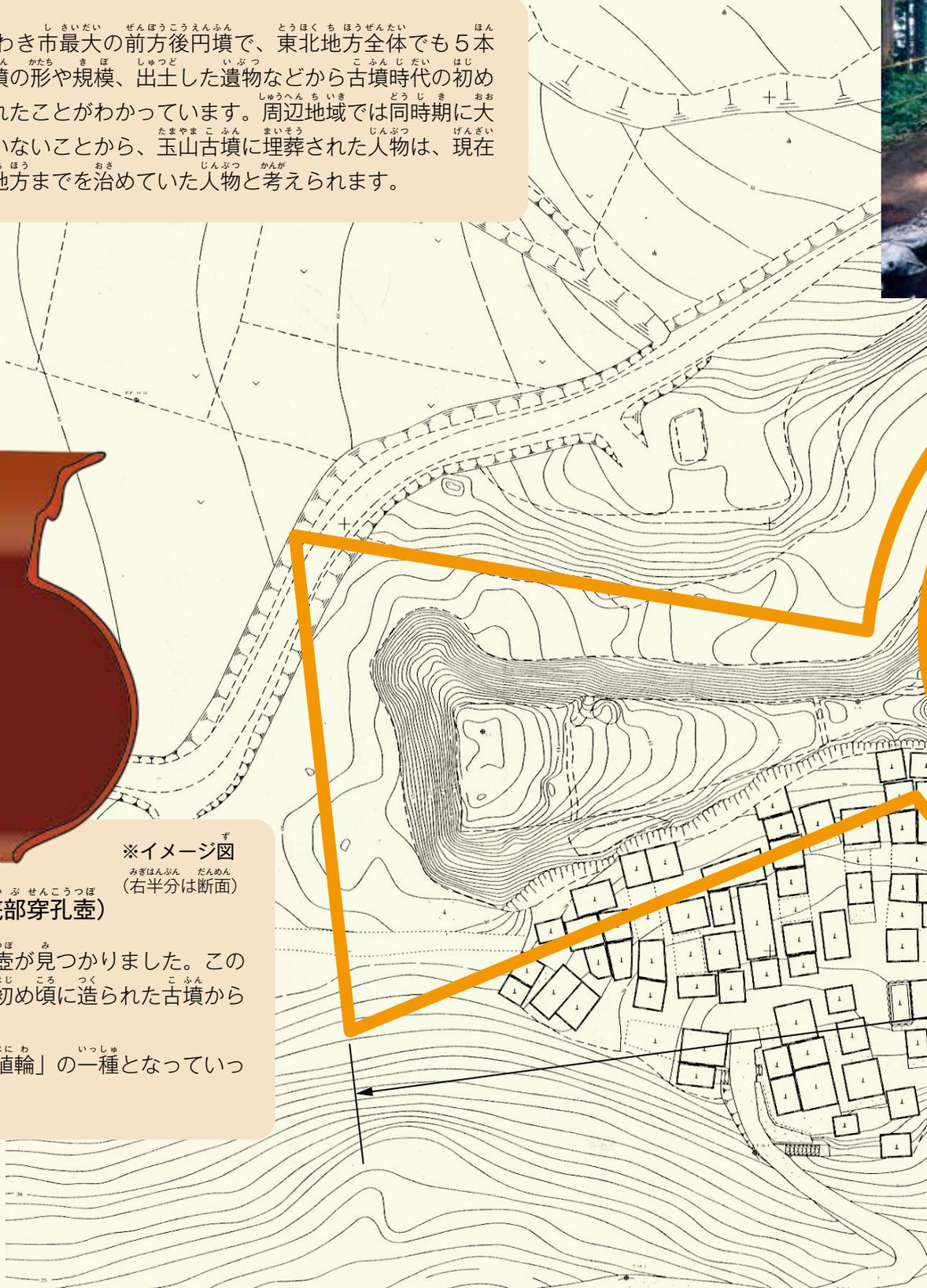


※イメージ図
 みぎはんぶん だんめん
 (右半分は断面)

そこ つぼがた ど き ていぶ せんこうつぼ
底がない壺形土器 (底部穿孔壺)

たまやま こふん そこ つぼ み
 玉山古墳では底がない壺が見つかりました。このような土器は古墳時代の初め頃に造られた古墳から多く見つかります。

この土器がしだいに「埴輪」の一種となっていってと考えられています。



※大きな権力をもった人物は、大きな前方後円墳に埋葬される。

ぜんこく こふん
 全国の古墳

だいせんこふん
大山古墳
 こんだ びやうやまこふん
誉田御廟山古墳
 いしつ がおこふん
石津ヶ丘古墳

ぜんぽうこうえんふん
前方後円墳
 ぜんぽうこうえんふん
前方後円墳
 ぜんぽうこうえんふん
前方後円墳

ぜんちやう
全長486m
全長425m
全長365m

おおさかふん
(大阪府堺市)
 おおさかふん
(大阪府羽曳野市)
 おおさかふん
(大阪府堺市)



ふきいし
葺石

古墳の表面には石が敷き詰められていることがわかりました。これは「葺石」と呼ばれるもので、古墳を飾り立てたり、崩れにくくしたりするためのものです。

すべての古墳にあるものではなく、上位の有力者が埋葬された古墳に見られる特徴です。いわき市周辺では玉山古墳だけに見られます。



そら み たまやま こふん
空から見た玉山古墳

現在の玉山古墳はすっかり草木に覆われてしまっていますが、完成直後は草木もなく、葺石が白く輝き強烈な存在感があったことでしょう。

とうほくちほう こふん
東北地方の古墳

らいじんやま こふん ぜんぽうこうえんふん ぜんちよう みやぎけん なとりし
雷神山古墳 前方後円墳 全長168m (宮城県名取市)

かめがもり こふん ぜんぽうこうえんふん ぜんちよう あいつばん げまち
亀ヶ森古墳 前方後円墳 全長129m (会津坂下町)

あいつ おおつかやま こふん ぜんぽうこうえんふん ぜんちよう
会津犬塚山古墳 前方後円墳 全長114m (会津若松市)

とんみつか こふん ぜんぽうこうえんふん ぜんちよう
遠見塚古墳 前方後円墳 全長110m (宮城県仙台市)

いわきの古墳

愛谷古墳

よしまちあいやあざおおひら 好間町愛谷字大平にあった古墳です。縄文時代を中心とした遺跡として知られている愛谷遺跡で見つかりました。1辺が23mほどの方墳で、古墳時代の初め頃に造られたと考えられています。細長い主体部が見つかりました。副葬品は、鉄剣・鉄刀・刀子、白玉が見つかりました。



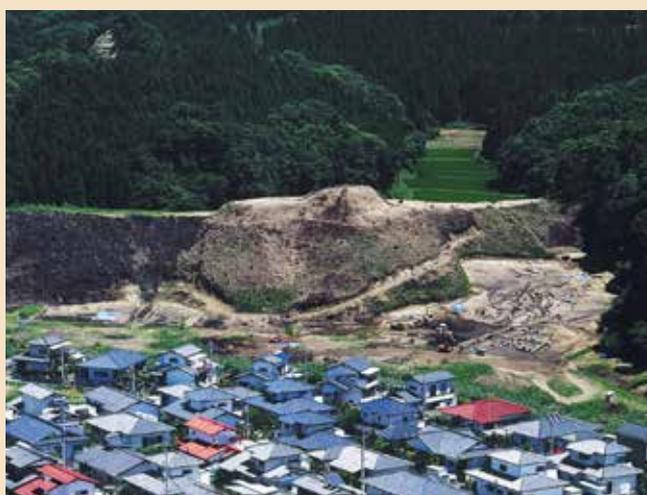
しゅたいぶ ようす
主体部の様子



とうず うすだま しゅつどじょうりょう
刀子・白玉の出土状況

馬渡古墳

じょうばんしもおまち 常磐下船尾町にあった古墳です。古墳からは東側に広がっていた当時の集落を見下ろすことができます。古墳の形ははっきりとしませんが、方墳ではないかと考えられています。愛谷古墳と似た主体部が見つかりました。副葬品は、コハク玉、ガラス小玉といった玉類がありました。



じょうくう み まわたりこふん ひだり きた
上空から見た馬渡古墳 (左が北)

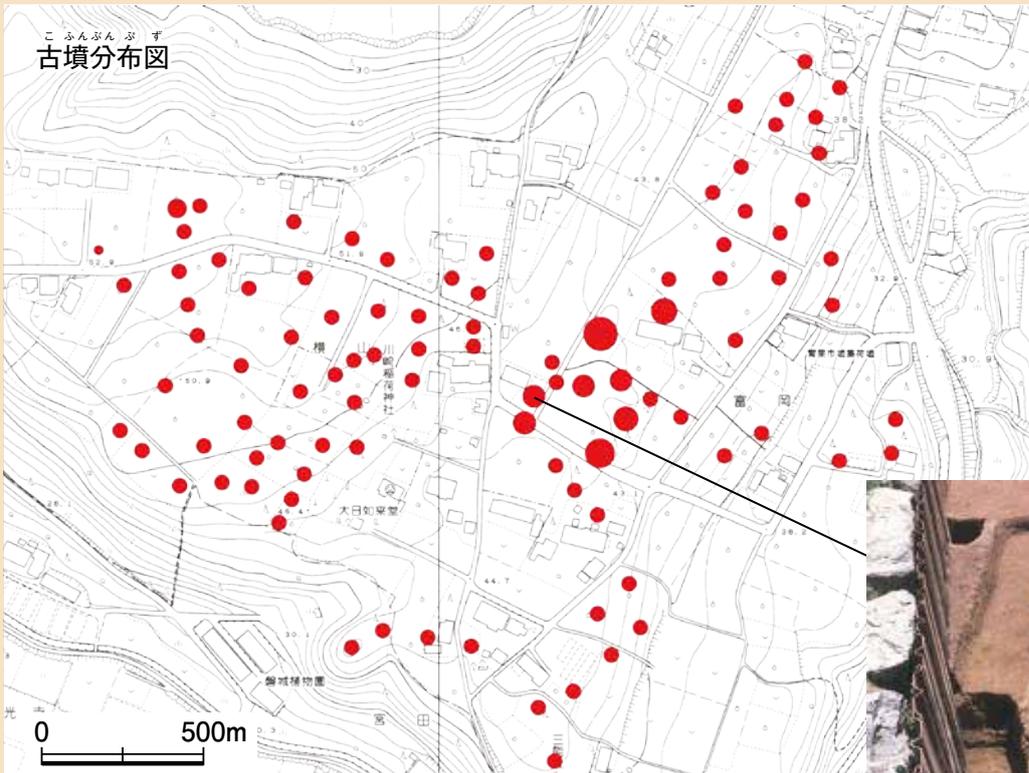


しゅたいぶ ようす
主体部の様子

よこやま こふんぐん
横山古墳群



平上平窪字富岡・字横山にある古墳群で、現在までに96基の古墳が確認されています。
古墳時代の終わり頃の古墳群で、埋葬施設が、周溝の中に造られる例も確認されています。副葬品は、鉄刀や鍬、首飾りなどがみつかっています。また、埴輪も見つかっています。



92号墳主体部の様子
鉄刀と鉄鍬が出土している



円筒埴輪



鉄刀

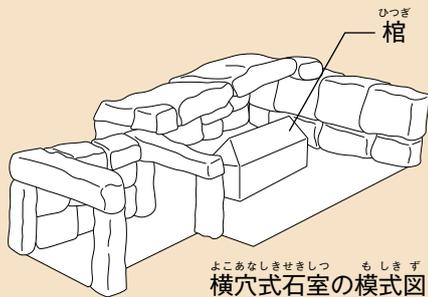
鉄鍬

いわきの古墳

五理内古墳

平下荒川字五理内にある古墳です。今では約10mしか残っていませんが、直径30mほどの円墳であったことがわかっています。

墳丘部分からは横穴式石室が見つかりました。

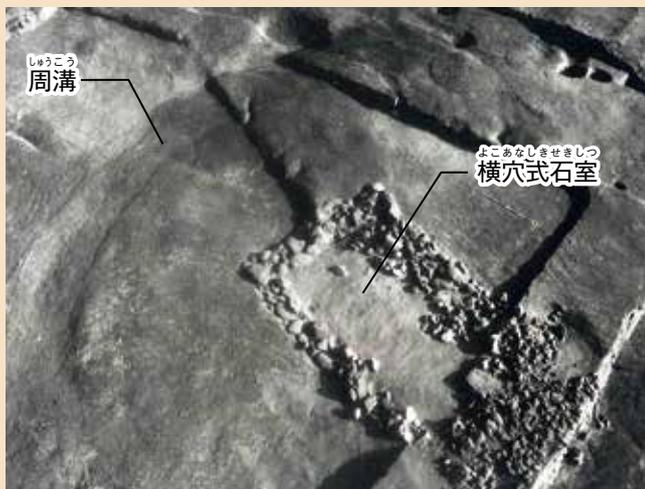


発掘調査の様子



龍門寺古墳群

弥生時代の遺跡として知られている龍門寺遺跡ですが、古墳も7基見つっています。写真は1号墳で、直径10mほどの墳丘に、小礫を敷き詰めて造られた横穴式石室をもっていました。副葬品として、刀子、鏃が見つかりました。



上から見た1号墳



1号墳の調査の様子



牛転古墳群

平下高久字牛転にある古墳群です。現在までに4基の古墳が確認されています。

昭和37年に行われた磐城考古学会の調査では、鏃や鹿角製柄刀子・管玉・挂甲の小札などの副葬品が見つかりました。写真は第2号墳の調査風景です。墳丘はすでになく、調査でも周溝は見つからなかったため、古墳の形はわかりませんでした。



発掘調査の様子

後田古墳群

後田町源道平にある古墳群です。かつては多くの古墳があったと伝えられていますが、現在は3基が残っているだけです。1号墳は、大正2年に調査が行われ、直径約10mで高さ約3mの円墳で、古墳時代の後半のものとされています。この調査では、東北地方で唯一の陶棺が見つかり、県指定重要文化財に指定されています。

陶棺とは？

焼き物で作った棺を陶棺と呼びます。現在見つかった陶棺のほとんどが西日本でみつかっています。

東日本ではめったに見つからないものなので、後田1号墳に埋葬された人物は西日本とのつながりがあったのかもしれない。



令和
平成 AD 2000
昭和
明治
江戸
安土桃山
AD 1500
室町
鎌倉
平安
AD 1000
奈良
古墳時代
AD 500
弥生
0
縄文
BC 1000
BC 14000
旧石器

この本にのっている古墳の場所

いわき市の古墳は、甲塚古墳のように田んぼの真ん中にあるものもあれば、玉山古墳のように丘陵の上にあるものまで様々です。自分の家や学校の近くに古墳がないか調べてみましょう！



令和3年3月30日発行

たからものずかん8

いわきの古墳時代 I

発行
編集

公益財団法人いわき市教育文化事業団(いわき市考古資料館内)

〒972-8326 福島県いわき市常磐藤原町手這50の1

電話 0246-68-6775 fax 0246-43-0395